

はしもとしょうてんがい

橋本商店街

(橋本商店街協同組合)

神奈川県相模原市緑区橋本

アプリ×ひと×街=つながり



取組の背景

商店街=街の創造者とする『笑』店街ビジョン

昨今普及しているスマートフォンやタブレットへの対応策、ならびにファミリー層をターゲットとする情報発信強化策として「橋本アプリ」(以下、「アプリ」)を開発し、商店街イベントの告知や経過情報、会員店舗のクーポン発行、写真コンテスト等に使える画像のアップロードおよび共有機能等を盛り込み、情報発信ツールのひとつとして運用してきた。

2020年1月にココミと「アプリ」による告知で、新春イベントを開催したところ、定員を超える参加者が集まる結果となり、「アプリ」が効率的に販促・宣伝機能を果たすことが実証された。

このイベントの集客成功の要因として、日頃の小学校との地域連携事業の取組に参画した親子等からのココミを通じて「アプリ」を知り、参加した割合が高かったことがアンケート結果の分析で明確になった。これは組合

からの一方的な情報ではなく、地域に密着した商店街の双方向性をもった情報発信が集客の相乗効果をもたらしたことを示す結果となった。

これを受けて「アプリ」を今以上に活用した販促・宣伝事業に取り組むべきという方向性が打ち出された。これを具現化するため、2020年6月、当組合の大きな役割として、街の創造機能、地域連携による個店への送客機能を担う「商(笑)店街ビジョン」を策定し、組合の送客機能として「アプリ」等の活用が明確に打ち出された。



アプリ告知で行った新春ビンゴ大会の様子

取組の内容

橋本アプリがもたらした多様な未来への可能性

コロナ禍前より「アプリ」を商店街の「送客機能」として活用してきたこともあり、順調に会員数を伸ばし、商店街の販促事業も連携させることで通行量も年々増加した。

しかし、「コロナ禍」に突入し、多くの販促イベントの実施が不可能な事態に追い込まれ、商店街の「送客機能」が喪失状態となってきた。

そこで理事会で検討の結果、この対応策として「アプリ」にスタンプラリー等の機能を追加することで、「アプリ」利用者が非接触で密にならずに、これまで以上に街区を周遊できるツールとすることが可能ではないかという結論になり、これまで情報発信が中心だった「アプリ」にスタンプラリー機能等を追加する改訂を行うことになった。

このほか、改訂された「アプリ」は、店舗利用の年代・性別の情報を把握することもでき、新たなイベント企画の情報源ならびに店舗のマーケット戦略情報として活用することもできるようになった。また「アプリ」の改訂にあたり、日頃から事業面で連携する地域・福祉団体



「橋本アプリ」のTOP

から「アプリ」を通じた情報発信を行い、発信する情報の充実も図っている。

さらに、「アプリ」を通じて、多様なイベント事業の申

込等の管理・運営の一括化が可能となり、事務局業務の効率化にも貢献できている。

取組の成果

地域を牽引した結果
街に必要とされる存在へ

会員の新規加入者数は2018年は8名、2019年は12名だったが、「アプリ」を組合事業の柱として位置づけた2020年には、上半期で20名が組合に加入した。

アプリのダウンロード数も逡増しており、2020年12月で約3,000近いダウンロード数となっている。

さらに商店街のさまざまな販促事業の効果もあって歩行者通行量も逡増し、2018年が5,520人/日、2019年が5,792人/日、2020年が6,129人/日と3年間で10%以上増加している。

実施体制

平均年齢40歳代の若い役員により、担当理事が柔軟な感性で新たな事業企画を立案している。

地域の小学校で授業を行う出張事業、多摩美術大学と連携したフリーペーパー制作、地域の非営利団体と連携した「アプリ」を通じた情報発信、相模原

市・商工会議所・神奈川県中央会等の関係機関と連携して諸事業を営むなど、行政・支援機関・関係団体との連携が強固である。

さらに「アプリ」を効果的に運用するため、組合員対象のIT活用研修の開催、情報提供にも力を入れている。

キーパーソンからのコメント

自分から手を挙げる!! 商いをする街だから

世代交代の成功。これが組織活性化の根本的な要因です。

商店街衰退の最も大きな理由の一つに「つまらない」があると思います。私も商店街の理事になった当初、会議での話題は愚痴・昔話そして変化を否定することばかりでした。

街の文化や歴史を守ろうとする気持ちはわかりますが、「進化させよう」「新しい文化を創ろう」という気概は感

じることができませんでした。このままではこの商店街も衰退してしまう。その危機感から37歳のときに自ら理事長に立候補させていただきました。先人たちが築きあげ守ってきたからこそ今がある。その事実を大切にしながらも、どんどん新しいことにチャレンジしています。時には継続せずに打ち切ってしまったイベントもあるので調整は大変なのですが…



橋本商店街協同組合 理事長 古橋裕一

商店街の概要

相模原市北部の交通の要衝である橋本駅周辺の商業集積地として発展し、1965年に市内で初めて法人化を行った商店街。橋本駅にリニア新幹線が接続することが決定したことで、当街区に店舗が増加し、街の人口形態が大きく変化した。当商店街が会場となる「橋本七夕まつり」が相模原市を代表する祭りとして有名で、最近は大人も子供も楽しめるハロウィンフェスティバルや、個店が専門家となり商店街客に専門知識を伝える「まちゼミ」の他、オリジナリティあふれる販促・宣伝事業を実施していることもあり、毎年会員数が増加している。

所在地 神奈川県相模原市緑区橋本
人口 約72万人(相模原市)
電話 042-772-2543
FAX 042-703-5554

URL <https://www.84moto.biz/>
会員数 154名
店舗数 500店舗(小売業80店、飲食業250店、サービス業50店、金融業7店、不動産業20店、医療サービス業30店、その他)

商店街の類型 単独型
主な客層 家族連れ(親子)・高齢者
/40歳代・50歳代